

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第561号 平成25年6月17日

460万人の重さ

65歳以上の高齢者のうち、認知症の人は推計で15%、2012年時点で約462万人に上る事が、厚生労働省の研究班の調査で分かりました（6月2日付北海道新聞他）。

厚生労働省は昨年、認知症の高齢者の数を305万人と発表していましたが、今回の調査によって、それが150万人以上も上回る事になりました。

昨年の調査は、介護保険の要介護認定を基にして行われたものですが、今回の調査は、2009年度から2012年度間での4年間、愛知県大府市、茨城県つくば市、佐賀県伊万里市等全国8つの市と町の高齢者、およそ5300人について、本人への面接や家族への聞き取り等に加えて医師が診断を行った結果を分析し、認知症の人の割合を調べたものです。

その結果、認知症の人の割合が15%と推計し、これを去年の全国の高齢者数3079万人に置き換えると、認知症の人はおよそ462万人に上ると推計しています。

また、年代別の認知症の割合を見ると、74歳までは10%以下ですが、年齢と共に上がり、85歳以上では40%を超えているとしています。なお、男女別では、ほとんどの年代で女性の方が認知症の割合が高くなっているとの事です。

人生80年時代といわれているように、人が長生きになった事は喜ぶべき事ですが、同時に、高齢化に伴う影の部分も大きくなっていると感じます。

今回の調査では、認知症の調査に加え、初めて「認知症になる可能性がある軽度認知障害（MCI）の高齢者」について調査を行っています。その結果、65から69歳は8.4%ですが、その割合は年齢と共に増え、80から84歳は22.9%の方々がMCIと診断されており、これを基に65歳以上の高齢者の内認知症の予備軍を推計すると約400万人に上るとしています。まさに65歳以上の4人に1人が認知症（予備軍を含む）となる計算ですから、事態はかなり深刻だといわねばなりません。

また、こうした人々の中には、介護サービスを使っていない高齢者も少なくないと見られていますので、今後ますます、介護体制の整備や支援策の充実が必要となるでしょう。

認知症は、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなった為に生活する上で支障が出ている状態を指し、人によって妄想や徘徊等の症状がでます。

また、原因はアルツハイマー病や脳血管障害等様々です。

これに対してMCIは、正常と認知症の間のグレーゾーンにある状態とあって良く、記憶等の能力に低下が見られますが日常生活は送る事が出来る状態にあります。こうした認知症予備軍の方々は、早い段階で医療機関等から適切なケアを受ける事が望ましく、放置したままだと5年後には半数の人が認知症に進むとの報告もあるそうです（6月1日付朝日新聞）。

私も、しばしば物忘れはしますし、記憶力の衰えを実感していますので、本当に年は取りたくないと思う反面、年だから仕方がないという諦めの気持ちもない訳ではありません。しかし、こうした諦めの気持ちが一番の問題で、「早期診断、早期治療」の重要性は認知症についても何ら変わりません。何事も諦めてはいけないという事です。

厚生労働省の「認知症施策検討プロジェクトチーム」は、昨年6月「今後の認知症施策の方向性について」というレポートを出しています。

その中で、今後目指すべき基本目標を「ケアの流れを変える」事に置いています。つまり、「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指そうというものです。

具体的には、「自宅→グループホーム→施設あるいは一般病院・精神科病院」というような不適切な「ケアの流れ」を変え、むしろ逆の流れとする標準的な認知症ケアパス（状態に応じた適切なサービス提供の流れ）を構築しようというもので、こうした新しい流れを実現させる為に、

- ・標準的な認知症ケアパスの作成・普及
- ・早期診断・早期対応
- ・地域での生活を支える医療サービスや介護サービスの構築
- ・地域での日常生活・家族の支援の強化
- ・若年性認知症施策の強化
- ・医療・介護サービスを担う人材の育成

に向けた積極的な取り組みを求めています。

こうした考え方を踏まえ、厚生労働省は昨年9月、「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」を策定し、

- ・「認知症ケアパス」の作成・普及
- ・かかりつけ医の認知症対応力の向上

- ・ 早期診断等を担う医療機関の確保
- ・ 認知症の人やその家族等に対する支援
- ・ 若年性認知症施策の強化

等の施策を打ち出していますが、早急に実効性のある対応を期待したいと思います。

認知症の原因は分かっていません。しかも、薬で進行を遅らせることは出来ても、根本的な治療は確立されていません。

原因が分からないという事は、認知症になる可能性は誰にでもあるという事です。しかも、これから年を重ねるごとにその危険性が確実に高まって行くというのは、私自身、身近な所で認知症の現実を多く見聞きして来ましたので、切なく感じます。

「そうなったらなった時の事だ」と半分は開き直っていますが、それでも何とか脳みそを活性化させようと、「塾頭通信」を書きながらあがいています。

(塾頭：吉田 洋一)